

余生よせい

良りょう

寛かん

雨晴あめはれくもは雲晴くもはれてき氣復も晴またるは

心清こころけきはればへん遍界かい物皆もの清みなしきよ

身を捐みてす世よをす棄すてて閑人かんじんとなり

初はじめてつき月はなとよ花はなとよにせい余生せいをおく送くる

【作者】良寛(一七五八〜一八三二年)江戸後期の禅僧。漢詩人。歌人。越後国(現・新潟県)出雲崎の人。俗姓は山本。名は栄蔵。後、文孝と改める。号は大愚。諸国を行脚、漂泊し、文化元年、故郷の国上山(くがみやま)の国上寺(こくじょうじ)に近い五合庵に身を落ち着けた。晩年、三島(さんとう)郡島崎に移った。高潔な人格が人々から愛され、子供達も慕ったが、人格の奇特さを表す逸話も伝わっている。ただ、遺されている漢詩は陰々滅々として、類例を見ないほど暗いものである。

【語釈】* 余生：今まで過(こ)してきてまだ余(あ)っている人生。年老(ねいろう)いてからの人生。余命(よめい)。* 復(たがひ)：また。* 遍界(へんがい)：全宇宙。法身(ほふしん)の功德(くふとく)があまねく行き(い)く世界(せかい)。法界(ほふがい)。仏語(ぶつご)。* 棄身(すくしん)：身を捨(す)てる。一身(いつしん)を投(な)げ出(だ)して顧(か)みない。世(よ)をの(の)がれ、出(だ)家(か)する(す)ことを謂(い)う。

* 月(つき)と花(はな)：自然美(じぜんび)。風雅(ふうが)

【通釈】雨(あめ)が晴(は)れ、雲(くも)も晴(は)れて、氣(き)も亦(また)晴(は)れて。(内的世界(ないてきせかい)である)心(こころ)が清(きよ)らかであれば、全宇宙(ぜんしゅう)の(自分(じぶん)にとつて)外界(がいがい)の物(もの)体(たい)がみな、清(きよ)らかなものとな(な)って(な)ってくる。出(だ)家(か)して世(よ)捨(す)て人(ひと)とな(な)って、閑人(かんじん)とな(な)り。は(は)じめて月(つき)や花(はな)とい(い)った風雅(ふうが)な(四季(しき)の環(かん)境(きやう)で、)老(ら)いてからの人生(にんじふ)を過(こ)すこと(こと)とな(な)った。